

# 総務グループのアップ UP 通信 1月号 Vol.87



もうすぐお正月。年始のお年賀など、贈り物のやりとりが多くなる時期は、大人でも楽しいものですね。クリスマスとお年賀で、贈り物のラッピングががらっと変わるのも、日本人の器用な一面ではないでしょうか。ところで、日本の元祖ラッピングって何だと思いませんか？



## 日本の元祖ラッピングは「熨斗」と「水引」



伊勢には「さざえ熨斗」もあつたんですって！

日本の贈答の特徴といえるもの。それは「のし」です。「のし」「のし袋」と日常的に私たちはよく使っていますが、漢字で「熨斗」と書きます。熨斗は、伸ばして平らにする意味の「伸す」(のす)から名詞化した言葉。古来、アワビの肉を薄く長く切り、伸ばして干した「熨斗鮑」(のしアワビ)という保存食がありました。熨斗鮑は、儀式に用いられ、縁起物として贈答品に添えられていましたが、やがて簡略化され、アワビのかわりに黄色い紙が用いられるようになりました。現在も色紙の中に熨斗鮑を模した黄色い細片が入っているのは、そのなごりなのです。



観光案内などで「御食つ国」(みけつくに)という言葉を見かけませんか？御食つ国とは、古来、朝廷に「御贄(みにえ)」(「御食」: 天皇の御食料を指す)を納めた国のこと。平城京跡から出土した木簡や平安時代の延喜式の記述などから、「若狭国」、「志摩国」、「淡路国」などが推定されています。さざえ、鮭、ワカメ、モズク、雑魚などの他、特に深い海の底から獲れるアワビは最上級の献上品でした。時には真珠を抱いていることもあり、アワビは最高の礼をつくした贈り物であり、アワビを添えることがとても大切なことだったと言われています。



### 水引とは？

和紙をコヨリ状にしたものに、糊を引いて固めた紐のこと。現在、全国の水引の70%は、長野県飯田市で生産されています。結納飾りやお金を包む祝儀袋の飾りとしてよく使われており、おめでたいときの思いをより伝える“飾り結び”も有名です。



### ところで・・・水引の歴史

水引の歴史は、はるか飛鳥時代、遣隋使が戻る際に同行した使者からの贈物に紅白の麻の紐が掛けられていたのが始まりとされています。その後、宮廷への献上品には紅白の麻の紐が掛けられるようになり、室町時代以降に麻の紐から現在の水引になったと言われています。

そして、江戸時代には庶民にも広がり、現代では、種々の花を模したりなどしてアートやアクセサリーにも使われています。



### 水引の結び方

・蝶結び(花結び) 何度でもほどいて結び直すことができるため、**何度あっても良い祝い事に用いられます。** 出産、長寿、入学、新築、開店、年賀等季節の挨拶等には、蝶結び(花結び)が使用されます。

・結び切り ほどき直すことが出来ないため、**二度とあってはいけないうちに用いられます。** 結婚、病気、災害、仏事等には結び切りが使用されます。

・あわじ結び 結び切り同様、両端を持って引っ張るとさらに強く結ばれることから、「**未永く付き合う**」という意味があります。結婚祝いに使用されます。

「紅白」「金銀」⇒お祝い事  
「黒白」「黄白」⇒お悔やみ事